

平成 29 年度 学校評価自己評価及び学校関係者評価（外部評価）表

東広島市立もみじ小学校・もみじ中学校

教育目標	自らを律し、自ら行動する人間の育成 ～ 自律と自立 ～	評価 4・・・目標を上回って達成 3・・・ほぼ目標どおりに達成 2・・・目標をやや下回る
経営理念	<ミッション・ビジョン> 「育ち直し」「学び直し」の理念のもと、生徒の自律・自立を支援する。	

項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	評価		短期経営目標の達成状況
						9月	2月	
学習指導	1	○確かな学力の定着	学習意欲の向上	・授業と寮学習の連動 ・読書活動の推進	・生徒意識調査85%以上	2	3	・TTや少人数での指導の実施、個に応じた学習課題の設定や家庭寮との連携による学習習慣の定着に向けた取組 (授業アンケート) 学習に対して少しずつでも自信を持つことができています。【中】87.0% 【小】85.2% (授業アンケート) 寮での学習では、授業で習ったことなどの復習をしています。【中】83.1% 【小】59.3% (授業アンケート) 復習や宿題で分からないところがあったときに寮の先生などに聞いて取り組んでいます。【中】83.7% 【小】44.4% ・漢字検定や珠算などの各種検定の受検 (漢字検定: 全員が受検 2級1名、準2級2名、3級1名、4級6名 珠算: 準2段1名) ・図書貸出日を設定しての読書活動の推進 (図書貸出: 【中】平均44.3冊 【小】平均28.6冊 2月末現在)
			授業づくりの充実	・校内での全体授業研究年2回	・生徒授業肯定的評価85%以上	3	3	・前期・後期に各1回の研究授業を実施(5月:理科、10月:保健体育) (授業アンケート) 授業を楽しみにしています。【中】88.4% 【小】77.8% (授業アンケート) 授業はよくわかります。【中】92.1% 【小】88.9%
				・評価方法の工夫	・ <u>学力伸長状況把握に係る方法の検討と実施(方法検討に係る校内研修、調査の実施、結果分析に係る研修)</u>	3	3	・学力伸長状況を把握する評価の在り方について校内研修を3回実施し、生徒の試験結果等を分析し、授業改善に向けて意見を交流した。 ・試験結果等の変化を見ることで、個や全体の学力定着状況を確認するとともに、課題点を明らかにすることができた。 ・個別に学力を見ていく必要性を共有するとともに、個々の評価や指導方針等を記録するシートを作成し、運用にむけての準備を行った。
			学習規律の徹底	・授業開始・終了時の大きな声での挨拶の定着	・生徒意識調査90%以上	2	3	・教師や学園職員による声かけを行うとともに、暮会での確認を継続した。 (授業アンケート) 授業の始まりと終わりに大きな声で挨拶をしています。【中】89.5% 【小】88.9%
生徒指導	2	○社会に通用する生徒の育成	東広島スタンダードの徹底	・学校生活での徹底	・生徒意識調査85%以上	3	4	・月間目標を設定し、学活・集会等を通じて指導するとともに、評価を工夫することで意識化を図った。 (生活アンケート) 気持ちのよいあいさつをした。 90.9% はっきりと返事ができた。 81.8% 丁寧な言葉使いを心がけた。 95.5% 履物をそろえることができた。 100.0% 【4項目平均】92.1%
			校内環境美化の推進	・心を育てる美化・緑化活動の推進	・生徒意識調査85%以上	3	4	・総合的な学習における体験活動の推進や清掃指導の徹底を図った。 (生活アンケート) 学園や校内の美化や緑化に積極的に取り組んだ。【中】94.7% 【小】100.0%
			体験活動の充実	・総合的な学習の時間の充実	・生徒意識調査80%以上	3	3	・学園との連携による詳細な計画の立案、授業開始時の目標設定と終了時の評価の徹底 (授業アンケート) 「わかった・できた・うまかった」という喜びを味わうことができています。【中】89.5% 【小】100.0% (授業アンケート) 学習に対して少しずつでも自信をもつことができています。【中】73.7% 【小】100.0%
信頼される学校	3	○学園等連携の推進	連携の推進	・学校教員と学園職員との積極的な情報交換	・ <u>進路指導に係る連携計画作成と研修の実施</u>	3	3	・進路指導についてこれまでの取組みを整理し、「学園・寮が原籍校や保護者と進めること」「本校が原籍校と進めること」「原籍校が保護者と進めること」に大別し、連携して取り組めるよう計画を作成した。 ・学園と学校の合同研修を3回し、指導内容や保護者・関係機関との連携の在り方等について確認を行った。 【5月】学活の指導内容に係る情報共有 【9月・11月】連携計画に基づく連携のあり方についての確認
				・教職員及び学園職員意識調査90%以上	3	3	・朝会や暮会、合同研修会、合同職員会議、各種主任会議、ケース会議、生徒指導に係る報連相 (アンケート) 学園の職員との良好なコミュニケーション 【教職員】前期 100.0% 後期 78.6% 【学園職員】 後期 80.0% (アンケート) 学園の職員と授業や学習に関して必要な連携 【教職員】前期 100.0% 後期 76.9% 【学園職員】 後期 55.0% (アンケート) 学園の職員と生徒指導に関して必要な連携 【教職員】前期 100.0% 後期 76.9% 【学園職員】 後期 75.0%	
			情報発信の充実	・地域への情報発信	・行事参加者満足度調査90%以上 ・ <u>融月のHPの更新</u>	2	2	・運動会、文化祭等への地域、支援団体の参加 (アンケートへの肯定的な回答) 運動会 100.0% 文化祭 100.0% ・個人情報保護を踏まえたHPの運用について整理中

改善の方向性

〈学習指導〉	生徒の関心・意欲を引き出す授業の継続・充実とともに、宿題の内容と期限を明確に児童・生徒に示し、寮と連携することで寮学習の充実を図る。また、分からないところを質問できる環境づくりをすすめる。そのために、学園寮との合同研修を実施するほか、学園寮の担当者との細かな連携を行う。	学校関係者評価（外部評価）
〈生徒指導〉	児童・生徒への指導の在り方については再度確認が必要になっている。児童・生徒の発達上の課題等も多様化してきている為、適切な指導の方法について共通認識を持つために連携を密にしている。 入園児童・生徒の個々の理解や対応のために連携支援シート作成し、カンファレンスや外部機関との連携に係る方法の改善を行った。 今後、学校教職員と学園職員の異動により人の入れ替わりがすすむことを踏まえ、問題発生時の対処の方法について、これまでの取組みをどのようにして継続・発展させるかについてさらに協議・検討してゆく。 体験活動は児童生徒の成長に大きく役立っており、関係機関・外部講師との連携を継続・発展することにより、来年度以降も充実を図る。	【評価】 後期になって児童生徒が多く転入した状況を踏まえると、いずれの評価も適切であり妥当性がある。 【意見】 ・学校評価表に昨年度の数値を記入して比較することで状況の変化を把握することも考えられる。 ・ホームページについては、学校の特質性（自立支援施設内の学校）もあることから評価項目にあげることが妥当であるかは、検討する必要がある。 ・人材育成の視点で教職員の個人目標とリンクさせ、評価を人材育成のツールとして、活用することが大切である。 ・学校と学園が連携しての「学力向上の取組」「積極的な地域交流」「総合的な学習の時間の充実」などを通して、子ども達に生きる力を身に付けさせている。
〈信頼される学校〉	学校教員と学園職員の連携については概ね良好と考える。しかしながら、課題の明確化のため項目別に調査を行ったことや、後期に入って連携に係る課題を整理するなか、学校教員や学園職員の意識が高まった結果、自己評価も厳しくなったと捉える。今後は、授業や学習（TT、寮学習、ケース会議等）についてより質の高い連携が必要であり、複数の教員による授業づくり等について合同の研修会を実施することで連携の充実を図りたい。ホームページ等の情報発信については、個人情報の保護を踏まえた運用について学園と協議を進め、早期に内容の充実を図る。	・授業づくりの充実として、校内授業研究を年間2回だけではなくグループ毎や管理職が入った授業研究をすることで、教員の授業力の向上を図ることが児童生徒の学力向上につながる。 ・卒業(退園)後のフォローアップ体制を充実させる必要がある。